

36. ドイツ語の文構造 (3)

1. 定形倒置と強調について

文章であることがらを強調して相手に伝えたいときは、文の最初にそのことがらをおく場合がふつうです。

Heute gehe ich ins Disneyland. 「今日はディズニーランドへ行く」
Mich versteht der Lehrer. 「僕のことなら先生が分かってくれる」

ドイツ語ではこの場合は、主語より前に主語以外のものがあるわけですから「定動詞第2位の原則」にしたがって、かならず「定形倒置」という語順になります。こうした場合は日本語でもその単語を最初に訳して強調しなくてはなりません。

2. 定動詞要素後置の原則

ところがこれに対して人称変化をしている動詞、すなわち定形あるいは定動詞と密接に結びついている重要な単語や語句は、かならず文の一番最後、つまり文末におかれ、これを「定動詞要素後置の原則」といいます。

Ich kam mit meinen Eltern zurück. *I came back with my parents.*
Hast du schon dieses Buch gelesen? *Have you already read this book?*

分離動詞の接頭語の zurück は kommen という動詞と一番密接に結びつきますから常に文末におかれます。これに対して英語では back は come と一番密接に結びつくためその直後におかれます。あるいは現在完了では過去分詞はつねに文末におかれます。この点から英語とドイツ語の相違があきらかです。ドイツ語では人称変化をしている動詞、すなわち定動詞と密接に結びつくものは文末におかれるのに対して、英語は定動詞の直後がもっとも結びつきやすい位置なのです。これは前置詞句などでもまったくおなじことがおきます。

Wir gehen heute in die Schule. *We go to school today.*

なぜドイツ語と英語にこの違いがおきるか、というのは以下の理由によるのです。つまり英語は本来動詞の原形を含む動詞句は、原形動詞が一番先頭におかれています。

come back 「帰ること」
have read 「読んでしまったこと」
go to school 「学校へ登校するということ」

ドイツ語では逆に動詞の不定形を含む動詞句は、動詞の不定形が句の末尾におかれる約束で、分離動詞や熟語の場合は辞書にもこうした形で表記されています。

zurückkommen 「帰ること」
gelesen haben 「読んでしまったこと」
in die Schule gehen 「学校へ登校するということ」

これは「学校へ登校すること」という和訳をみればわかるように日本語の場合とまったく同じです。従って英語では主語がこの動詞句に結びついても語順はなにも変わりませんが、ドイツ語では主語がこの動詞の不定形を含む動詞句につくと、動詞は「定動詞第2位の原則」に従って先頭から2番目の位置に移動します。動詞と一緒にあった zurück や gelesen あるいは in die Schule のような重要な単語や語句は取り残されてそのまま文末に残ってしまうのです。

このようにドイツ語では定動詞と密接に関係する重要な単語や語句あるいは熟語のことを「定動詞要素」とよんでいて、これらはかならず文末におかれることになっています。これまで学んだ分離動詞の接頭語、未来時称の不定形、完了時称の過去分詞などが文末におかれた理由は、この「定動詞要素後置の原則」によっているのです。

英語と大きく違うこのような語順は、ドイツ語を理解するうえでもっとも重要な点ですから、十分に理解する必要があります。

3. 語順について

a. 目的語の語順

ドイツ語には目的語が3格と4格のふたつあり、この並べ方には一応の原則があります。

- 1) 3格4格ともに名詞の場合は3格4格の順にする。

Ich gebe meinem Freund einen Ball. *I give my friend a ball.*

- 2) 3格4格ともに代名詞の場合は4格3格の順にする。

Ich gebe ihn ihm. *I give it to him.*

- 3) どちらか一方が代名詞の場合は代名詞を先におく。

Ich gebe ihm einen Ball. *I give him a ball.*

Ich gebe ihn meinem Freund. *I give it to my friend.*

ただし、この語順は発音のつごうなどでこの原則どおりではないこともときどきおこります。

b. 副詞や前置詞句の語順

これらの語順はドイツ語も英語もそれほど厳密なものではなく、しばしば副詞の長短や発音のつごうなどによって位置が変わることもあります。ドイツ語では原則として副詞や前置詞句の語順は、時、原因理由、場所、様態の順におかれることが普通ですが、とくに方向を示すものは定動詞要素とみなされて文末におかれる傾向があります。

Ich bin gestern hier glücklich angekommen.

I arrived safely here yesterday.

この例文では時の副詞の位置に注目しましょう。ドイツ語では定動詞の直後におかれますが、英語は文末におかれるのが普通です。もし「昨日」を強調したい場合は

Gestern bin ich hier glücklich angekommen.

Yesterday I arrived here safely.

のように、それぞれ文頭におくこととなります。ただしドイツ語では定形倒置となることに気をつけましょう。

Er fährt heute Abend mit dem Auto nach Berlin.

He will go to Berlin by car tonight.

ドイツ語の nach Berlin という方向をしめす前置詞句は fahren という動詞と密接に結びつく定動詞要素となるため文末におかれますが、英語では go の直後に to Berlin という定動詞要素がおかれます。このようにドイツ語でも英語でも方向をしめす副詞や前置詞句は定動詞要素と見なされることが普通です。

Sie denkt immer nur an ihre eigenen Interessen.

She always thinks only of her own interests.

英語ではしばしば always のような副詞は主語と動詞のあいだにおかれますが、ドイツ語ではこれはゆるされず、主語と動詞のあいだにはなにもおくことはできません。